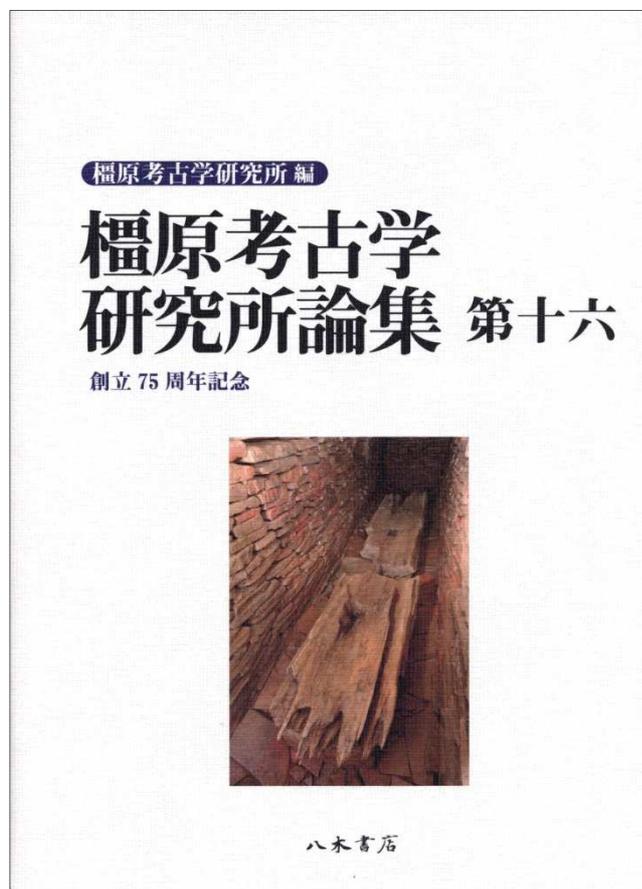


橿原考古学研究所論集 第十六



書籍番号 71478

奈良県立橿原考古学研究所編著

2013年12月 A4 347頁 (上製本)

八木書店 **¥18,000**(本体)

ISBN 978-4-8406-2600-2

【目次】



目次

カラー口絵

序文	菅谷 文則	1
舒明天皇陵・天智天皇陵・天武持統天皇陵外形調査概報	末永雅雄・秋山日出雄・網干善教・菅谷文則・藤井利章	5
弥生時代の人面装飾付土器	渡辺 誠	23
近畿地域の鎔銅技術の基礎的研究（Ⅰ）	北井 利幸	32
箸墓古墳・西殿塚古墳の墳丘の段構成について	西藤 清秀	41
奈良県内所在の前期古墳出土木棺材の年輪年代	光谷 拓実	52
古墳時代前期の和泉砂岩製石棺	関川 尚功	57
京都府桂川右岸地域に投影された政権中枢勢力の動静	田中 晋作	68
畝傍山と周辺古墳の性格	泉 森 皎	77
常陸発見の古墳時代繊維について	茂木 雅博	87
経錦再考	角山 幸洋	103
古墳出土鏝の使用法	岡林 孝作	111
古墳時代の須恵器流通についての一考察—播磨地域の事例検討から—	木 許 守	123
藤ノ木古墳人骨再考—南側被葬者は男性である—	片山 一道	132
太秦蛇塚古墳の造営時期—前方後円墳の造営停止時期に関連して—	白石太一郎	144
飛鳥寺北方域の開発—7世紀前半の小墾田を中心として—	相原 嘉之	155
法隆寺金堂薬師像の光背銘と天寿国繡帳の銘文—その史料的性格をめぐる—	東野 治之	165
王権のカンナビ—「吉野宮」の成立背景—	松田 度	170
藤原京条坊の精度Ⅱ—藤原京条坊の最適方格について—	入倉 徳裕	178
唐招提寺金堂の創建時期について	前園実知雄	189
大和国における奈良時代以後の墓	佐々木好直	199
発掘遺構からみる神社の成立	黒田 龍二	208
丹生川上神社の所在地問題について	米川 仁一	218
金剛山の法起菩薩と役小角と修験道	田中 久夫	227
半球形瓦器椀の成立とその背景	本村 充保	241
大和における中・近世石造物の石材産地とその分布	奥田 尚	250
奈良奉行と寺社の「宝物」	森下 恵介	260
温泉考古学事始め	橋本 裕行	268
新羅出土の角杯について—日本列島出土品の源流を探る—	井上 主税	276
隋唐長安の交通と城内外の土地利用	妹尾 達彦	284
鏡と六博	清水 康二	291
シルクロードの樋口コレクションについて	樋口 隆康	301
民俗行事にみる集落の領域表象	泉 武	316
年預の翁詞章の伝来	池田 淳	327
付載：奈良県立橿原考古学研究所5年間の主な歩み		337
執筆者紹介		345